

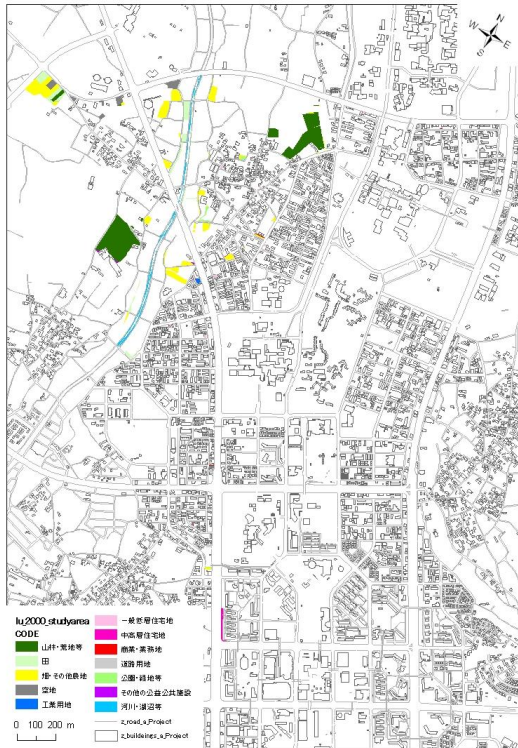
筑波大学周辺地域におけるセイタカアワダチソウの分布と生育場所の分析 Distribution and Habitat Analysis of Goldenrod *Solidago altissima* around University of Tsukuba

橋本 操 (博士前期課程地球科学専攻)
HASHIMOTO Misao (Master's Program in Geosciences)

- 目的:** 外来生物の一つとして、セイタカアワダチソウが秋によく観察されている。これらは在来種を駆逐し各種草原の種多様性を損なうこと、また冬季になるとその枯れ株が景観を損なうとされ、問題になっている。本研究では、筑波大学周辺において、セイタカアワダチソウの分布について調べ、どのような場所に生育しているかを分析し、その生育規模について考察する。
- 対象地域:** 対象地域は、筑波大学の西に位置する西大通り沿いの西平塚、東平塚、要・天久保3丁目・下平塚・刈間の一部地域、春日1~4丁目、吾妻2丁目住宅地区とした(図1)。
- 手法:** Arcpad を用いてセイタカアワダチソウの生育場所をポリゴンデータとして取得した。そのうえで、他の草本、木本、ゴミの有無、土地利用を同時に記録した。他の草本の有無は競合があるか否か、木本の有無は開けた場所か否か、ゴミの有無は管

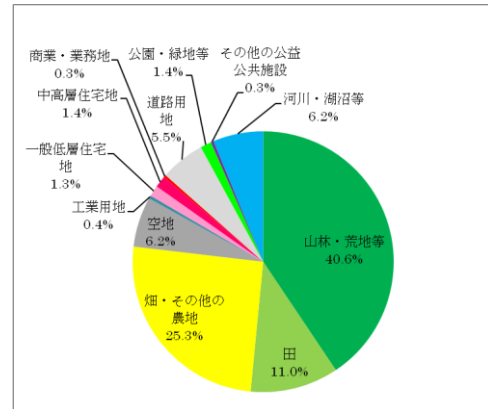
理が行き届いた場所か否かを表す指標とした。

- 結果:** 対象地域 91 カ所で生息が見られた(図1)。特に山林・荒地等で生息が多く、次いでその他の農地、田の順であった(図2)。他の草本はすべての場所で生えていた。照葉樹や落葉樹の植木や街路樹といった木本が 45.5%(照葉樹 21.3%、落葉樹 23.2%)の場所で生えていた。約 75%の場所は開けた場所であった。ゴミは 56.9%の面積で見られた(図3)。
- 考察:** セイタカアワダチソウは開けた、日当たりがよく、管理が行き届いていない場所で生育していることが考えられた。住宅地や駐車場等においても建物が隣接する隙間等の小空間を活用していた。筑波大学の周辺地域においては、駅に近い住宅地から北上していくにつれ、造成や整備が進んでいない地域が増加するため、セイタカアワダチソウの生育規模は大きくなると考えられた。

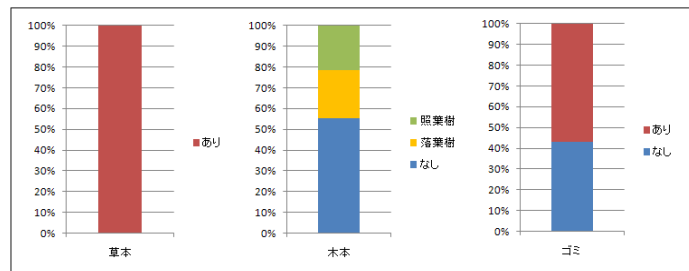


第1図 結果における土地利用

(現地調査及び細密数値情報 数値地図 5000 (2000年),
ゼンリンの Zmap により作成)



第2図 セイタカアワダチソウの生育面積に対する土地利用割合



第3図 その他の草本の有無、木本の有無及びゴミの有無における生育面積の割合